

## 5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

## 5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

### (1) 分布状況からみた河川環境の特徴 (資料 II.5.1)

今回とりまとめを行った 24 水系 27 河川で確認された両生類は 2 目 7 科 21 種、爬虫類は 2 目 7 科 15 種、哺乳類は 7 目 17 科 57 種でした。それぞれの確認種数が多かった河川は、両生類では東北地方の最上川の 12 種、爬虫類では北陸地方の信濃川の 11 種、哺乳類では北海道地方の十勝川の 23 種でした。

### (2) 特定種一覧 (資料 II.5.2)

今回とりまとめを行った 27 河川で確認された特定種は、両生類が 2 種、爬虫類が 1 種、哺乳類が 7 種でした。レッドデータブックの準絶滅危惧種と国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが近畿地方の木津川で確認されました。

確認種数が多かった河川は、北海道地方の十勝川が 4 種と最も多く、今回とりまとめを行った 27 河川のうちの 14 河川では、何らかの特定種が確認されました。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- ・ 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種(2000: 両生類・爬虫類、2002: 哺乳類)

### (3) 外来種一覧 (資料 II.5.3)

今回とりまとめを行った 27 河川で確認された外来種は、両生類が 1 種、爬虫類は 2 種、哺乳類が 8 種でした。外来種の確認河川数が多かった種は、両生類ではウシガエルの 22 河川、爬虫類ではミシシippアカミミガメの 14 河川、哺乳類ではハツカネズミの 13 河川でした。また、外来種が最も多く確認された河川は、近畿地方の淀川で 7 種、逆に外来種が全く確認されなかった河川は、北海道地方の尻別川と九州地方の山国川でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (49~50 ページ) および 51 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

### (4) カエル類の確認状況 (資料 II.5.4)

確認状況の概要は 16 ページに、また、これら選定種の確認状況(確認種数・確認個体数)は 144 ページに掲載されています。

### (5) アオダイショウとヒバカリの確認された地域 (資料 II.5.5 (1)、(2))

確認状況の概要は 15 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 145~146 ページに掲載されています。

(6) スッポンの確認状況 (資料 II.5.5 (3))

確認状況の概要は 16 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 147 ページに掲載されています。

(7) ミシシippiaカミミガメと在来カメ類 (イシガメ、クサガメ) の確認された地域 (資料 II.5.5 (4)~(6))

確認状況の概要は 27 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 148~150 ページに掲載されています。

(8) ウシガエル、ヌートリアの確認された地域 ((資料 II.5.5 (7)、(8))

確認状況の概要は 28 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 151~152 ページに掲載されています。

(9) 分析対象種の確認状況の経年比較 (資料 II.5.6)

これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 153 ページに掲載されています。